

人生100年時代を支える 新しい**社会保障**

衆議院議員
藤田文武

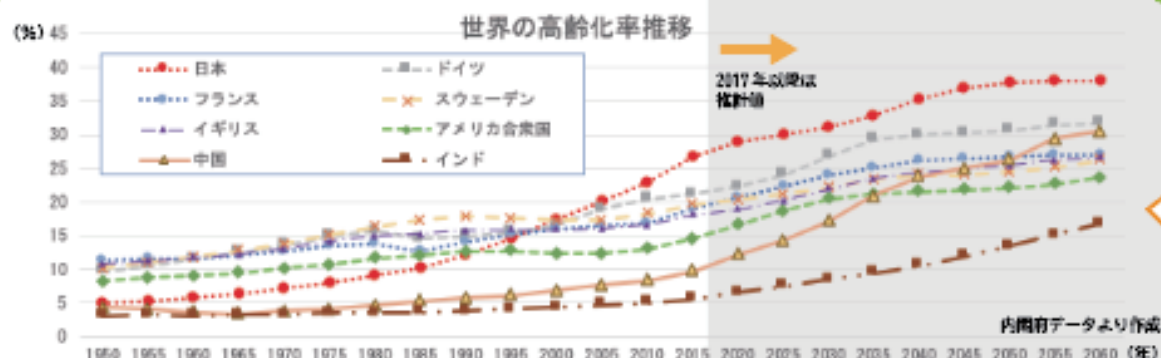
現在の社会保障プランの大枠が策定された1959年、日本人の平均寿命は67.5歳でした。いま私たちの平均寿命は80歳を超え、いつまでも安心して長生きできる社会を創るためには「100年生きる」ことを前提とした社会保障制度の再構築が必要です。



世界でまだ誰も見たことのない社会保障制度へ

日本は世界で最も早く少子高齢化が進んでいます。従って、日本が新たに創る社会保障制度は、未だ世界中の誰も見たことがない先進的な制度になるはずで、税制と、社会保障と、そして労働市場改革を今の時代に合わせて0ベースで議論していくと、新しい社会の在

り方が見えてきます。それは単に「守る」だけの社会保障ではなく、人が生き生きと暮らし、創造し、何歳になっても新たな挑戦ができる、人生100年時代を前提とした全く新しい考え方の社会保障制度です。



中国やインドなど「人口大国」と言われる国が、今後日本を上回るペースで高齢化してくることが予測されています。日本は世界に「豊かな高齢社会」のモデルを示すトップランナーの位置にいます。

「税と社会保障」に「労働市場」の改革をプラス

税と社会保障の改革に、労働市場改革を加えると、新しい社会保障制度のあり方が見えてきます。今の制度は高度成長期の「終身雇用」「年功序列」を前提に作られています。企業の正社員には手厚い一方、自営業や非正規雇用の方との間で

格差が拡大しています。今の時代は働き方も多様化し、今後女性の社会進出も一層期待される中、社会保障のあり方も多様な働き方を支えるセーフティーネットとしての役割に重点を置いて考え直す必要があります。

高度成長期

現在



終身雇用
年功序列
専業主婦



働き方の多様化
女性の活躍推進

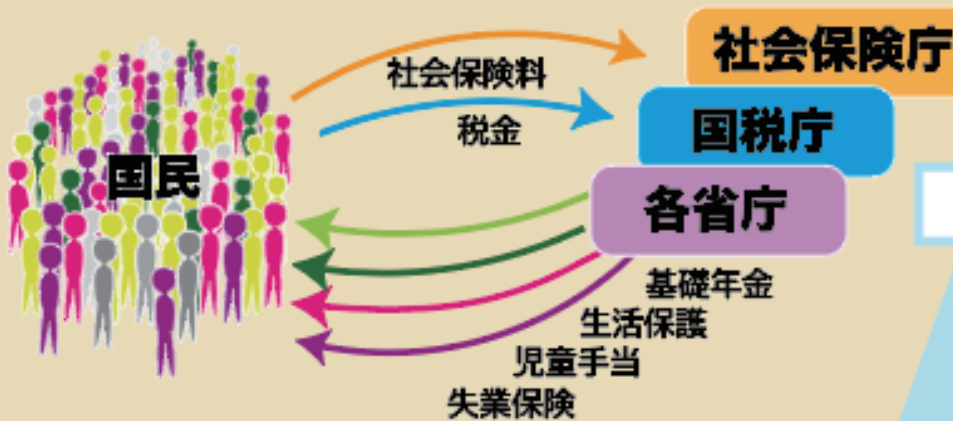
簡素な行政による無駄なコストの削減

日本の社会保障制度は長い年月の中で非常に複雑な多重構造となっています。そしてそれぞれの事務を適切に執行するために多くの行政コストが発生しています。維新の

会が目指すのは簡素な行政。税と社会保険料で二重にかかっている徴収コストや、個々人の状況に合わせて変わる給付への、申請、認証、給付額の算定や不正受給の取締り

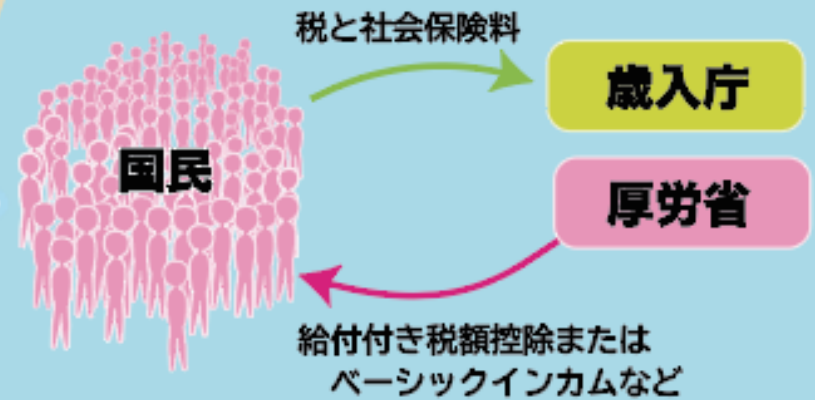
など、制度が複雑なことで発生している過剰な行政コストを整理することで、国民により公平で手厚い社会保障を実現する制度を党内で議論しています。

【別々の組織がそれぞれで徴収】



【各省庁が個人の状況に応じて様々な給付】

【歳入庁を創設し、歳入を一本化】



【国民全員が公平に受けられる給付に一本化】

国会改革の必要性

いつまで「桜」は吹き荒れるのか

新型コロナウイルスの猛威が世界中に広まりつつある中、日本の対応は入国管理と防疫の問題や、クルーズ客船への対応など直ちに法整備すべき課題が多く持ち上がっています。ところが、日本の国会は未だ多くの審議時間を不祥事の追及に費やし、肝心の法整備は遅れるばかり。適法性の追求は司法機関に任せ、国会を立法院に戻す改革が今まさに必要です。

おしらせ

大東市で
大阪維新の会を
応援する会

～国政・市政報告会～

3/29 (日) 14:00～

大東市立 市民会館

どなたでもお気軽に
ご参加ください!

活動配信中!



政治家が本当にやるべき仕事をやれば、
この国はもっと成長する。未来はもっと安心なものになる。

令和二年も日本維新の会にご期待ください!

発行元：藤田文武事務所 大阪府寝屋川市八坂町 24-6